

# 第5章 計画実現に向けて

## 5-1 役割分担と連携

### (1) 役割分担

本計画の推進にあたっては、産学官及び市民が本市の工業振興の目指すべき方向を共有し、それぞれが担う役割を明確にしながらか、相互に協力・連携していく必要がある。

#### ① 行政の役割

市は、地域の現状や企業ニーズの的確な把握に努め、小山工業団地連絡協議会、小山商工会議所など商工関連団体や大学・研究機関、国や県など各関係機関との緊密な連携、調整を図るとともに、小山市工業振興懇話会の助言を受けながらか、産学官民の連携による事業・施策の具現化・展開等を迅速かつ効果的に推進していく。

また、より緊密な推進体制を確立していくため、各種団体等の交流機会の場を積極的に設け、有機的なネットワーク形成を促進し、産学官民が一体となって工業・地域振興に主体的に取り組めるような環境づくりを進めることが必要である。

さらに、本計画で位置づけた各種事業の適切な進行管理を行い、社会経済動向等の方向性を見極めながらか、必要に応じ適宜計画の見直しを検討する。施策の進行管理にあたっては、庁内内部局との情報交換や連携を充分とりながらか、効率的な計画推進・調整に努めるものとする。

特に、計画推進にあたっては、単一的な事業展開のみでなく、一体的かつ総合的な事業推進を図るため、行政一丸となった裾野の広い支えと関連各課連携のもとに、市全体の総合的な工業振興に努める。

#### ② 事業者の役割

地域産業の振興のためには、事業者自らの創造性と主体的・自主的な取り組みを実践していくことが重要である。

事業者の経営上の課題等を踏まえながらか、経営基盤の強化を図るとともに、経営改革や新事業展開への積極的な挑戦など、地域間競争に勝ち抜く持続的な成長に向けた自助努力に努めることが求められる。

また、企業間、異業種・異分野間交流への参画に努めながらか、小山らしい製品開発やPR活動など、魅力と個性ある産業振興に寄与していくことが必要である。

さらに、従業員及び市民の健康と安全に配慮するとともに、小山の大切な財産である豊かな自然環境との共生を図り、人と環境にやさしい、働きたくなる職場づくりに努めることが重要である。

### ③ 大学・研究機関の役割

---

大学や研究機関等は、それぞれが得意とする専門分野を中心に、事業者の研究開発活動に対する技術支援を積極的に行うとともに、技術相談や技術移転等の支援に努めることが求められる。

また、本市に立地する白鷗大学、関東職業能力開発大学校、小山工業高等専門学校などは、本市の工業・地域振興を担う人材育成の場として捉えられることから、事業者等との連携による優秀な人材育成・確保に貢献することが必要である。

### ④ 市民の役割

---

市民は、工業振興に向けた様々な取り組みが地域経済の活性化に寄与することを十分理解し、行政や事業者等と協力しながら、産業支援活動に参画するよう努めることが求められる。

また、事業者や研究者が新たな製品開発を効率的に実現していくためには、消費者のニーズを的確に捉えることが重要であり、事業者等の求めに応じて、消費者の立場としての意見や評価の提供を行い、事業者等の研究・開発活動に対して支援・協力を努めることが求められる。

## ( 2 ) 連携

行政、事業者、大学・研究機関及び市民が、それぞれの役割を果たすとともに、本計画に位置づけた各種事業を効果的、効率的に推進していくためには、互いに連携・ネットワークを図っていくことが重要である。

特におやまブランド産業の振興・情報発信をはじめ、若者や女性等の創業支援・育成などにおいて、それぞれが得意とする分野、技術、ノウハウなどを活かし、互いに手を携え小山の産業振興を盛り上げていくことが求められる。

また、地元企業の支援・振興や新たな産業基盤整備の展開については、国・県との緊密な連携・協力により緊急的課題等にも速やかに対応できる体制を構築していくことが求められる。

さらに、小山の産業振興という大きな視点では、上記関係機関にとどまらず、農業、商業、観光サイドなどとの連携も重要である。

## 5-2 計画推進に向けて

### (1) 個別具体計画の立案

第4章において計画推進に向けた各種事業の取り組み方針を示した。

各種事業の推進にあたっては、財政状況や事業ニーズ等を勘案しながら、実現に向けた詳細の検討をつめていく必要がある。

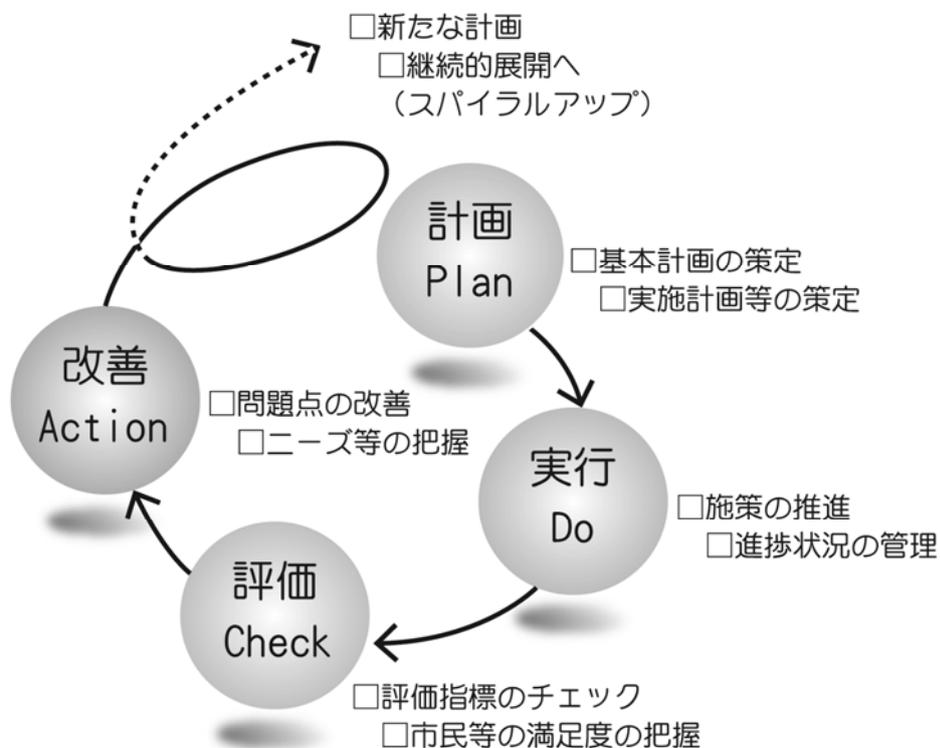
そのためには、特に重点事業等について、個別具体の実施計画等の立案を検討していくことが求められる。

### (2) 計画の進行管理

各事業を実効性の高いものとし、また、時代背景やニーズに対し適切に対応するため、評価指標に位置づけた目標値に対する達成度評価をはじめ、本計画や上記に示した実施計画等の計画をもとに、いわゆるPDCAサイクル※による計画の進行管理を行うことが求められる。

また、このPDCAサイクルを繰り返し行うことにより、施策の継続的、発展的な展開（スパイラルアップ）を行う。

#### ◆PDCAサイクルによる計画の進行管理イメージ



※PDCA サイクル：PDCA は、Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Action(改善)の各頭文字。行政計画等の進行管理においても重要な概念の一つ。